



### コミュニティ副会長紹介

今年度は委員・役員交代の中で副会長も新しく変わられました。



小暮 臣之  
(鹿島町内)

コミュニティとは総代会で四年間、中越沖地震や各事業活動に係わらせていただきました。微力ではありますが、会長を補佐し少しでも手助けができればと思っております。



神林 浩二  
(旧広田町内)

これまで「つららなす会」のメンバーの一員としてコミュニティとは係ってきましたが、突然、副会長の大役を拝命し、戸惑いだらけの日々です。自分ができるところを精一杯協力させていただきますのでよろしくお願いします。

北条地区  
コミュニティ  
振興協議会  
TEL25-3355

北条ネット  
kitajo.net

ひろかわ ともか

### 空前の大津波から三カ月、被災地でのボランティア活動

伊部 秀雄

発生から四〇日が経過した四月九日、防災科学技術研究所と多くの方々の協働による、被災地の復興状況を一〇年間記録するプロジェクトにボランティアとして参加し、仙台から東松島、石巻、女川、南三陸、七ヶ浜、岩沼、相馬の各ボランティアセンターを回りながら、被災状況を写真に記録して来た。

テレビや新聞で報道されているよりも悲惨な状況が目の前に広がる。自衛隊などにより主要道路の通行は可能だが、石巻に入ると家屋は浸水被害とがれきで見えるも無残な姿になっていた。海に近づくると建物は流され、がれきの山と横倒しの車だけが目に映り、海岸線は延々と数百キロ同じ光景が続いていた。最も被害が大きかった南三陸町志津川地区は見渡す限りがれきの街に変貌、町役場、防災対



東北電力女川原発のある女川町

策庁舎、それに志津川病院などの施設だけが鉄骨をむきだし、音も色も無い世界が広がっている。シーンと静まり返った空間に聞こえるのはカモメの泣き声だけだ。五月二十日現在、未だに電気、水道、ガスが復旧しておらず、住民は不自由な生活を送っている。海岸からすぐ目の前に見える志津川病院は、当時、職員・患者が三〇〇名程院内に居たが、五階建ての病院は四階の天井まで津波が押し寄せ、七十八名の尊い命が奪

われた。病院は地域の避難場所に指定されているにもかかわらず、これだけの人命が失われたことを考えると、誰もがこれだけの津波が来るとは、思いもしなかったことだろう。

地元から山形県庄内に嫁いで行った女性は、故郷の変わり果てた姿を見ながら「ここは旅館や海産物店や食堂などが集まった所で、いつも賑やかな街だった」と懐かしそうに話していたのが印象に残る。

どこも被災地は目を覆うばかりの状況になっており、家も生活基盤も失われ、再建のめどが立っておられない方も大勢おられる。泥の海となった岩手。宮城県は連休時には大勢のボランティアで賑わっていたが、現在その数も減り、泥だしの要員を多数募集している。こんな時こそ皆で助け合い、被災地を支援しなければならぬ。

また一時は、有り余るほどの毛布や衣類などの救援物資もたくさん送られたが、現在は野菜や果物、カップラーメン、缶詰等の食料品が不足している。個人の物資は受け付けられないが、団体での支援物資は可能だ。

震災の時に助けてもらった北条です。どうか皆でボランティアに参加し、三陸の街を助けてやってください。

